

2019年1月11日

吉田和彦先生ご退職記念パーティーの開催につきまして

京都大学文学研究科
言語学教室教員一同

拝啓

新年明けましておめでとうございます。みなさまには本年が幸多い一年になりますよう祈念いたします。

さて京都大学文学研究科言語学専修の教授である吉田和彦先生は、本年3月31日をもって停年退職されます。

先生は1954年2月10日大阪市に生まれ、大阪の名門、府立高津高校を卒業後、1973年4月に京都大学文学部に入学されました。先生は1975年4月に文学部言語学専修に進まれ、今は亡き西田龍雄先生のもと、一般言語学や歴史比較言語学の研究に邁進されました。1977年4月修士課程に進学。修士論文はゴート語の動詞接頭辞geに関するものでした。この研究はほぼそのまま翌年の『言語研究』に掲載されるほどの完成度でした。博士課程に進学後の1981年8月から、米国コーネル大学大学院博士課程言語学専攻に留学されました。ここで先生が生涯の師と仰ぐ、印欧語比較言語学の泰斗Jay Jasanoff 教授（現ハーバード大学）との出会いがありました。Jasanoff 教授の指導のもと1985年に提出された博士論文は、ヒッタイト語の動詞人称語尾-riに関する研究です。論文はその後*The Hittite Mediopassive Endings in -ri*というタイトルでベルリンのWalter de Gruyter社から1990年に出版されています。楔形文字粘土板文書の文献学的・言語学的分析を通して、それまでヒッタイト語の動詞形態論の謎とされていた中・受動態動詞現在形に付与される-riという要素が現われる条件を明らかにしたうえで、この形態素が付与される中・受動態動詞の先史を、他のアナトリア諸語や印欧諸語と比較することによって鮮やかに再構成されました。この研究成果は綿密な文献学的分析と厳正な歴史比較言語学的方法の統合の結果であり、アメリカ言語学会誌やパリ言語学会誌などの書評できわめて高い評価が与えられ、いまでは定説として広く認知されています。

1985年9月にコーネル大学での研鑽を終え帰国し、同年11月からは京都大学文学部講師として京都大学に奉職されました。以来本年3月に退職されるまで実に33年以上の間、文学部及び文学研究科の教員として、文学部や言語学教室の運営とご自身の研究に専念されました。この間1993年には助教授に、1995年には教授に昇任されています。在職中には大学院の重点化やそれに伴う学内組織の再編、文学部校舎の建て替えなどがあり、言語学専修では西田龍雄先生の退職やそれに伴う後任人事（宮岡先生、庄垣内先生、田窪先生）などがありました。先生はこの激動の時代に文学研究科の教員として、そしてまた言語学専修を代表する教員として幾多の難題を解決してこられました。文学研究科の最古参で「有職故実の吉田和彦先生」として、先生にお尋ねしなければ分からないことが多々あるというのが実情です。

研究面では、博士論文以降一貫して、ヒッタイト語研究を中心に据えた印欧語比較言語学に関する論文や著書を発表しておられます。著書5点、編著書6点、論文や辞書の項目など100点を優に超えています。先生は常々研究成果は国際的に共有されなければならないと主張され、自らそれを実践して来られました。実際研究論文の大半を占める本格的な印欧語研究は、すべて英語でしかも海外で発表しておられます。国際学会での研究発表は数えきれませんが、世界的に高い評価を得ておられる先生は、2017年4月の最後の1週間、カリフォルニア大学ロサンゼルス校に於いて名だたる研究者の前で *Topics in the Hittite Verbs* という連続講義をされました。

教育面では、毎年の言語学講義が、緻密に計画されていることで定評がありました。ユーモアと刺激にあふれるその名物講義を知る人の中に、現在文学部の教員をしておられる方もあります。多くの研究者を育成されたことも特筆されます。在職中に50点を超える博士論文の調査委員をされましたが、そのうち15人の *Doktor Vater* になっておられます。主査となられた博士論文の指導は丁寧で、博士論文の完成までにすべての指導は終わっているので、論文の試問は通過儀礼でしかないというのがご持論でした。

大学運営や学外での貢献も多大でした。文学部の幾多の重要な委員会の委員長として活躍された先生は、2014年4月から2017年3月まで京都大学教育研究評議会評議員として、文学研究科だけでなく京都大学全体の運営面にも貢献しておられます。その実績から2017年以来京都大学国際高等教育院教授に任じられ、京都大学の教養教育全体をサポートしておられます。日本言語学会の改革でも手腕を発揮され、現在の言語学会の大会の運営は先生の設計によっています。2003年には日本言語学会の編集委員長、2013年には梶会長の事務局長として実質的な運営や、未曾有の剽窃問題の解決などに尽力されたのは記憶に新しい所です。2017年10月から日本学術会議第一部（人文・社会科学）会員として、日本全体の人文科学研究の発展のためにも尽力されています。

こうして先生の業績や貢献を書いてきて、言語学教室のメンバーとして特に心に残るのは、西田先生が大学を去られた後、曰く因縁に満ちた京都大学言語学懇話会を忍耐強く率いてこられた人知れぬ努力と情熱です。我々には「至極簡単だ」と常々言っておられますが、毎年3回行われる懇話会の発表者の選定と依頼、会場の確保と会費の管理などをすべて一人でやってこられました。そこには、理論言語学でも、歴史言語学でも、調査言語学でもない、「言語学」の名の下に、言語学者が集う会が存在しなければならないという先生の気高い信念があったのでした。

このたび吉田和彦先生が停年退職されることになり、言語学教室の教員一同は吉田和彦先生の長年の苦労を労うとともに、今後とも末永く研究を進め後進の育成にご尽力いただくことを願ってささやかなパーティーを、下記の要領で開催することに致しました。この会はまた吉田和彦先生の最終講義も兼ねております。年度末の慌ただしい時期ではありますが、是非ともご出席下さるようお願いいたします。

敬具

記

吉田和彦先生ご退職記念パーティー

日時：2019年3月30日（土） 午後3時から7時30分まで
（受付は2時30分から）

第1部 3：00-5：00 （文学部新館第3講義室）

・吉田和彦先生最終講義：「発見の瞬間」
（第1部だけのご出席も歓迎いたします。）

第2部 5：30-7：30

・立食パーティーとスピーチなど （文学部新館第1・2講義室）

立食パーティー参加費：一般 5,000円, 学生 3,000円（当日受付でお支払いください。）

場所は上記の通り、第1部と第2部で異なりますが、第1部の会場の下の階が第2部会場です。文学部のホームページでご確認ください。

アドレス：<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/about/access/>

第1部だけのご出席も歓迎いたします。第2部（立食パーティー）に出席される方は3月15日までに出席を下記の吉田豊のアドレスか住所宛にお知らせくださるようお願い致します。なお、このメールに返信する形では、下記のアドレスに届きませんので、くれぐれもご注意ください。

アドレス：Yutaka.Yoshida@bun.kyoto-u.ac.jp

郵便番号 606-8501

京都市左京区吉田本町 京都大学文学研究科 吉田豊 宛

なお、吉田和彦先生の最終講義に関心を持ちそうな方々にも、この案内についてお知らせできれば幸いです。